

2019年1月4日  
泉第2チェリーこども園

# 翔通信 1, 2月号

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

暖冬と言われた今年の冬ですが、異常な暖かさや寒波による凍てつくような寒さが波のように繰り返されています。サウナ & 冷水のセットのように温暖の繰り返しで血行が良くなるのならいいのですが…。前回、前々回の翔通信で、この異常気象に対し、季節ならではの体験を子どもたちにさせてあげたいと記載しましたが、新年もいろんな体験と学びを得て欲しいですし、いろんな遊び(学び)の提案をしていきたいものです。

新年早々ですが今回の翔通信ではかなり“ヘビーな”話題を題材としています。個人(園長)的にはヘビーを乗り越してもはやホラーです。それは先に挙げた遊び(学び)にも通ずる内容でもあります。

新年新たな気持ちで、そして子どもに与えるものがどうあるべきか考えていきかけたので敢えて選ばせていただきました。ぜひご一読いただき、新年の“悩み初め”を一緒にしましょう！

## トピック

● 保育園、認定こども園の給食で政府方針 ※H30.12.3 発刊教育新聞より

● 「給食中は私語一切禁止」学校を取り巻く“不自由”の実態

※H30.12.4 Yahoo ニュースより

● ※駐車場のご利用についてお願い

● 保育園、認定こども園の給食で政府方針

今幼児教育を取り扱う法人、施設で物議を呼んでいるものが消費税増税に伴った幼児教育の無償化と給食費の関係です。

現状では幼稚園利用では給食費の全額、保育所利用では主食費が利用者による実費負担とされています。

幼児教育が無償化されることで給食費は利用形態に関わらず利用者負担（減免世帯は除く）と変わるとのことが政府の方針とされているようですが、有識者による「子ども・子育て会議」において賛否様々な意見が飛び交っています。

“そもそも保育に必要とされていた費用だから保育料に含まれていたのに無償化されることで給食が有料になるのはおかしい。”

“保育料の応能負担の原理に反する”

“幼稚園利用との整合性で考えれば同じ負担で妥当”

“学校の給食費の考え方で言えば教育場面での給食費は実費でよい”・・・などなど。

現状を見ると実費負担に収まりそうですが、いかががお考えになりますか？



● 「給食中は私語一切禁止」学校を取り巻く“不自由”の実態

下記に記事全文を載せております。長文ですがご一読いただければと思います。この状況と同じことが全ての小学校で言えるとは思いませんが一部でもこんなことが行われているかと思うとゾッとしますし、これで何を教育したいのか甚だ疑問です。

当園での教育実態をご存知の保護者の皆さまにとっては“教育”という意味が教科教育などの短絡的にイメージできるものだけではなく、本質的な意味での教育は、世の中のことをいかに明るく、前向きにとらえ、それを得て、獲得していく“喜び”が“学び”であるということとは理解していただいているのではないかと思います。

その体現者であり、世の中を現し(表し)、映し出していく鏡となるのは身近な“大人”です。

では、下記の実態から子どもは何を学ぶのでしょうか？

“食事は時間内に食べられるよう黙って食べるのが正しい”、と身につけてしまうだけならまだ被害は少ないでしょう。最も恐れることは、この実態を引き起こしている教育現場にいる大人が、『不本意ながらこうした教育を実践しないわけにはいかず、忙しさに追われているため、おかしいと思う教育実践を変えたくても変えることができない』、と思いながら教育を行っていることであり、その姿を子どもたちは敏感に感じ学習してしまっているということです。

その姿から子どもたちは世の中や働く大人を理解し、学んでいます。授業の中で教えられたもの以上に子どもたちは大人の姿から学び、世の中を解釈していきます。

世の中を『明るく、希望に満ち、まだ知らないワクワクがたくさんある』と学習した子どもはほっておいてもいろいろな事をポジティブに学んでいきます。

おそらく、下記の実態の中にいた子どもたちは学びが苦痛でしょうがないでしょう。だって、学んだ先にあるのが、『自身の仕事に不満を抱え、自分の思いに大きく反したことを強いられながら苦痛の中生きていく“大人”』なのですから。

その“学び”は黙食の中で詰め込まれた食品と同じく、不味く、苦痛で、絶望的なものでしょう。

教育現場にいる人間ならば、取り巻く不自由を打開するための行動をとってほしいですし、結果に結びつかずとも、その姿を目の当たりにした子どもにとってそれは最高の学びとなるのではないのでしょうか。

# 「給食中は私語一切禁止」学校を取り巻く“不自由”の実態 (AERA)

12/4(火) 7:00 配信



## 【親の声】何が学校を不自由に使っている？ (AERA 2018年12月10日号より)

時代に合わない規則、忙しすぎて子どもに向き合えない先生、自分の子どもの教育に熱心になるあまりに周りが見えない親……。 「学校が不自由だ」という声が数多く寄せられた。いまこそ学校現場の改革が必要だ。

昼どきの小学校は誰もいないのかと思うくらい静かだった。授業参観のため学校を訪れた女性(45)は、当時1年生だった娘の教室の後ろ扉をそーっと開けた。すると、目にとびこんできたのは、全員が前を向いて黙々と給食を食べる姿。

私語は一切なし。楽しいはずの食事の時間がなにかの訓練の場のように見えた。参観に来ていたほかのママ友たちとアイコンタクトで外に出て、首を傾げた。女性は言う。

「『黙食』と呼ばれる指導なんです。子どもたちがしゃべりながら食べると時間がかかるかららしいです。娘

は入学したばかりのころ、給食の時間が怖いと泣いたこともありました」

娘は食べるのが好きで、おいしければ「おいしいね」と言わずにいられないし、初めての食べ物を見たら「これ何？」と聞かずにはいられない。でもそうすると、先生にシーツと注意されてしまうのだ。

アエラでは「学校を不自由に行っているものは何？」と題したアンケートを11月に実施した。この問題への関心は高く、インターネットなどを通じて2週間で、親や先生682人から回答が集まった。「子どもたちにとって、学校が不自由だと感じますか」との問いでは、「非常に感じる」（56.2%）と「感じる」（37.1%）が合わせて9割以上に上った。

「不自由」の正体はいったい何なのか。

アンケートでは「体感温度は人それぞれだが、制服の冬服・夏服の期間を指定される」「体育は一年中半袖短パンという決まり」「下着の色にまで干渉する」など、服装を始めとする学校生活の細部にわたって自由がないという声も目立った。

小学生の子どもをもつ保育士の女性（43）は、こうした校則に無念さがこみあげる。勤める保育園では0歳からの未就学児を預かる。

「寒かったら、自分でもう一枚着ようね」

「汚れたって気が付いたんだね。じゃあ着替えてらっしゃい」

小学校に上がるまでに、自らの状況を判断し自分で行動できるよう指導している。それなのに、小学校に上がった途端「判断してはいけなくなる」とは。

「なんでも一律に決めてしまえば、先生も子どもも考えずにすむので楽かもしれませんが、そこで失われるものは大きいと思います。多様性は大事にされていないのでしょうか」

学校の不自由さを感じているのは子どもや親だけではなく先生もだ。アンケートでは、「先生としても学校が不自由か」を聞いたところ、不自由と回答した人は96%に上った。

30代男性の中学教員は朝、靴箱の前に立つと気が重くなる。担当学年、約200人分の生徒の靴を見て出欠確認し職員室の黒板に書くという業務があるからだ。もちろん各教室では担任が出欠をとる。

なぜ、靴箱でも出欠確認をする必要があるのか、他の教員に聞いても「これまでやってきたから」「自分の学年だけやらないわけにはいかない」といった答えしか返ってこない。

管理職に尋ねても、合理的な理由はわからない。実際、職員室の黒板に書かれた出欠情報を見ている教員はほとんどいない。

「いったん決めたことが形骸化しても、見直してやめるという発想が学校現場にはありません。だから忙しくなる一方です。慣例的に行われてきたことについて、上の人間に問いただすこと自体、はばかれる空気もあって完全に思考停止状態です」

首都圏の小学校に勤める男性教員（39）の学校では、「筆箱の中は鉛筆 5 本と赤鉛筆 1 本、定規、消しゴム」と決められている。さらに「消しゴムの色は白」と指定されているが、その理由まではわからない。

「本来であればなぜその決まりがあるのかを考えたり、どうあるのがベストなのかを教員たちで話し合うべきなのかもしれませんが、その余裕がありません」

先生たちの不自由の背景には「忙しさ」があるという声は多かった。この男性は、朝 8 時に学校に入ったあと約 10 時間、休憩なしのノンストップだ。午前中の授業を終えると、給食、昼休み、掃除の指導と続く。給食中は、話に夢中になる子がいれば声をかけ、食の細かい子は励まし、自身が落ち着いて食べる暇はない。規定では 15 時半ごろに 45 分間の休憩があるようだが、そんな時間は取れたためしがない。放課後も、会議や校務、次の日の授業準備や学級の仕事、さらに行事の準備ときりがない。

「仕事の絶対量が多く、勤務時間内にとっても収まりません。オーバーフロー状態です」

男性は家にも仕事を持ち帰る。学期末の忙しい時期は深夜にまでおよぶ。多様性を尊重したくても、とても考える余裕がないという。（編集部・石田かおる）

※AERA 2018 年 12 月 10 日号より抜粋

## ●※駐車場のご利用についてお願い

日頃より安全に駐車場をご利用いただきありがとうございます。おかげで昨年も人身に関わるような事故は一切起きておりません。これも保護者の皆さまの安全、マナーへの意識の高さの賜物かと思えます。

つきましては、保護者の方々より下記ご意見をいただきましたのでお知らせいたします。安全に利用するにあたって非常に的確なご意見かと思えますので今一度ご確認、ご注意いただければと思います。

○お車は端に幅寄せし、前向き駐車の際は車止めまで前進して、後続車、出庫車が通れるように駐停車してください。

○駐車場ではお子様から目を離さず、速やかに乗車させてください。

○お車の利用がないご家庭も駐車場ではお子様から目を離さず、手をつなぐなど安全に十分注意してください。

○自転車、ベビーカーなどは車の走行部分、駐車部分には乗り入れないようにしてください。

当園の駐車場は矮小であるためお車の利用の有無にかかわらず様々な方のご配慮があってはじめて円滑に利用でき、安全が保たれます。上記件以外にも駐車場利用のルール、マナーを守っていただき、安全にご利用ください。



## ●1月の予定

- 10日(木) もちつき会
- 11日(金) 音楽教室(つる) 参観懇談会(うぐいす・つる)
- 16日(水) ヒロト体育教室(はと) 参観懇談会(ひばい・はと)
- 18日(金) お魚ランチパーティ(きじ・つる) 避難訓練
- 23日(水) 誕生会
- 24日(木) 七北田小学校交流会(つる)
- 30日(水) 音楽教室(はと)
- 31日(木) 新入園児面接

※年間予定、及び追加予定については登降園打刻タブレットに、その予定の2週間前から表示されます。年間予定表一覧と併せてご活用ください。